

母親の育児支援に関するアセスメントツールの開発 ——自己決定理論に基づくアセスメント項目の内容妥当性の検討——

寺 菌 さおり 埼玉大学教育学部乳幼児教育講座
吉 川 はる奈 埼玉大学教育学部生活創造講座家庭科分野
浜 崎 隆 司 鳴門教育大学大学院学校教育研究科

キーワード: 母親、育児支援、アセスメントツール、自己決定理論

1 はじめに

昨今、減らない母親の育児不安に対して、「健やか親子 21 (第2次)」(厚生労働省)では様々な取組を行なっている。母親の育児不安は子どもの QOL (Quality of life; 生活の質) や母親としてのアイデンティティの形成に影響し合い(浅見ら 2013)、母親としてのアイデンティティの形成には母親自身が育児に対する効力感を抱くことが重要である(山口 2010)。以上より、母親の養育者としての発達を支えることは母親の育児不安を軽減するだけではなく、子どもの QOL も高めるものと推察される。このことから、乳幼児期の子どもをもつ母親が自らの育児に対して自分らしく「できる」という確信をもち、精神的に健康な状態で子どものニーズを満たすことができるよう支援するための方略を構築することが必要となる。

寺菌ら(2019)は子育て期の母親の育児行動尺度を開発している。これらの行動の遂行度が高いほど、子どもの QOL や母親の養育者としての発達が促進する可能性が示唆された。また、寺菌(2019)は Ryan&Deci (2000) の自己決定理論に基づき、育児に対する自己効力感(金岡 2011)と関連する項目を検討している。自己決定理論は人間の行動や人格的な発達に関する基本的な理論である(Ryan&Deci 2017)。自己決定理論の下位理論の一つの有機的統合理論では、主に社会的な価値を自分のものにしていくという内在化に着目し、その調整スタイルを自律性(自己決定性)の程度に応じて区分している。具体的には、無気力状態である無動機づけ(調整なし)から外発的動機づけ(外的調整、取り入れ的調整、同一化的調整、統合的調整)、内発的動機づけ(内的調整)という順で外発的動機づけと内発的動機づけを自律性という一次元状の連続体で捉えている(西村 2019; Ryan&Deci 2017)。実証的研究では外発的動機づけの中で最も自律性の高い統合的調整と同一視的調整は統計的な分別が難しいため取り扱われていない(西村ら 2011)。寺菌(2019)も統合的調整は取り扱わず、育児行動に対する動機づけ尺度を開発している(図 1)。寺菌(2019)によると無動機づけとは子どもを育てることに対する自らの意味をもたない状態で育児を継続する動機づけ(育児を継続していない場合もある)、外発的な動機づけは自律性の程度により最も低く他律的な外的調整(子どもを育てることに対する自らの意味を持たない状態で、周囲からの強制により育児を継続しようとする動機づけ)、やや他律的な取り入れ的調整(子どもを育てることに対する自らの意味を持っているが、母親自身の名誉や羞恥心から育児を継続しようとする動機づけ)、自律的な同一化的調整(子どもを育てることに積極的な意味をもちながら育児を継続する動機づけ)と徐々に自律の程度が高くなり、最も自律的な内発的動機づけに相当する内的調整(日々の育児の中で葛藤を抱くこともあるが、子どもを育てることの楽しさやおもしろさから育児を継続する動機づけ)と段階的に育児行動に対する動機づけを捉えている。こ

これらの調整スタイルは自律性の高い順に、内的調整、同一化的調整、取り入れ的調整、外的調整と一次元に並び、概念上隣接する調整スタイル同士は関係が強く、概念上離れた調整スタイル同士では関係が弱くなるというシンプレックス構造と呼ばれる関係にある (Ryan & Connel 1989)。

自己決定理論では、自律性、有能感、関係性への欲求がキーワードとされ、これら3つの基本的心理欲求の充足により自律的な動機づけが促進され、心理的な発達や精神的健康をもたらすという (西村 2019 ; Ryan&Deci 2017) 。育児行動に対する基本的心理欲求充足のうち、自律性への欲求充足とは、母親が自分自身の考えや思いで育児をしていると認識し、「自分らしく」育児を継続している状態、有能感への欲求充足とは、母親が自分自身の育児を認めたり、他者に認められたりする中で育児に対する自信を得ている状態、関係性への欲求充足とは、子育てコミュニティの中で、母親が周囲とのつながりを実感し、安心している状態を指す (寺藪 2019) 。寺藪 (2019) は、育児行動に対する基本的心理欲求の充足が母親の自律的動機づけの内化プロセスにおいて重要な要因であることを示唆している。このことは、「子どものニーズに応じた育児をしたいとは思わない」という無動機づけの母親に対して段階的に自律的動機づけへと変容するためにはどのような側面の基本的心理的欲求を充足すればよいかというアセスメントの手がかりとなりうる。

そこで、本研究では、アセスメントの指標として寺藪ら (2019) の育児行動尺度、寺藪 (2019) の育児行動に対する基本的心理欲求充足尺度や動機づけ尺度の内容妥当性を検討するために、本アセスメントツールを活用した保育士による育児支援の特徴を明らかにすることを目的とする。本アセスメントツールによる初回アセスメントの記述を母親の子どもへのかかわりや基本的心理欲求の観点から情報収集とアセスメントを捉えること、そして、支援時に記述した経過記録を有能感支援、関係性支援、自律性支援の観点から保育士の情報収集、アセスメント、支援内容の特徴を捉えることにより、本アセスメントツールの活用可能性を検討する。

行動レベル	動機づけ	自己調整	調整過程の特徴
非自己決定的 (他律的)	無動機づけ	無調整	育児は時間を無駄にしている気がする／育児をしたいとは思わない／育児をする理由がわからない
	外発的動機づけ	外的調整	育児をしななければいけないと思うから／子育てはきまりみたいなものだから／みんなが当たり前のように子育てをしているから
		取り入れ的調整	周りの人にかっこいい親と思われたいから／他の親よりよい子育てをしたいと思うから／周りの人によい親だと思われたいから
		同一化的調整	子育ては自分のためになるから／子どもを育てることで、自分が成長すると思うから／子育ては自分にとって意義があると思うから
(自律的) 自己決定的	内発的動機づけ	内的調整	子育ては大変だけれどもおもしろいから／子育ては大変だけれども楽しいから／子育ては大変だけれども子どもを育てることが好きだから

図1 育児行動に対する動機づけのタイプ

2 方法

2-1. 研究協力者

A 市立保育所 7 園に調査協力を依頼、園長から保育士へ説明し、研究協力を希望した 7 名の保育士が研究協力者である。保育士経験年数は 6~20 年で、1 名の保育士が複数の母親支援を希望したため、0 歳児クラス 6 名、1 歳児クラス 1 名、2 歳児クラス 2 名、3 歳児クラス 1 名の母親を対象に支援を展開した。

2-2. 支援展開時期と手続き

2019年10月～2020年3月。支援開始前に7名の保育士に対して母親の「子どもとのかかわり」を支援するために必要な視点とその根拠、自己決定理論を活用した記録の書き方、情報項目の理解、情報整理や評価の方法（アセスメントの方法）を個別に説明した。本アセスメントツール（表1）を活用した初回アセスメントと展開された母親への育児支援に関する経過記録の記述を分析の対象とした。

表1 自己決定理論に基づいて母親の育児を観る視点

項目	客観的な情報の視点	
子どもの発達を促すかかわり	見守る／受容する／共感する／褒めるなどのかかわりをしている	
子どもへの社会生活に向けての教育	他者への思いやる気持ち／他者を共感する気持ち／ルール／マナー（礼儀や身だしなみなど）／他者を傷つけない／命にかかわる危険なことをしない／お金や物の大切さなどの教育をしている	
基本的な生活習慣の確立の援助	子どもが食事を楽しむ工夫／子どもがおいしく食事を食べられる工夫／きれいにすることの心地よさ／生活リズム／基本的な生活習慣（食事・排せつ・衣服の着脱・睡眠・清潔など）の確立に向けて子どもの発達に応じた手助けなどを行っている	
基本的心理欲求	育児に対する有能感への欲求	自信を得ている／達成感を得ている／上手くしている感覚をもっている／自分の得意分野を育児に活かしている／母親の育児を褒めてくれる人がいる
	育児に対する関係性への欲求	相談できる人がいる／励ましてくれる人がいる／信頼関係を築いている人がいる／親切にされていると実感している／保護者との関係性がよい／保護者の中に話せる人がいる
	育児に対する自律性への欲求	自分らしい育児／自己決定的な育児（他者に決めてもらったり、いいなりだったりするのではなく、自分の意思で育児をする）／自分の意見や考えを言える
育児に対する動機づけ	無調整	育児は時間を無駄にしている気がする／育児をしたいとは思わない／育児をする理由がわからないなどの理由で子どもとかわっている
	外的調整	育児をしなければいけないと思うから／子育てはきまりみたくなものだから／みんなが当たり前のように子育てをしているからなどの理由で子どもとかわっている
	取り入れ的調整	周りの人にかっこいい親と思われたいから／他の親よりよい子育てをしたいと思うから／周りの人により親だと思われたいからなどの理由で子どもとかわっている
	同一化的調整	子育ては自分のためになるから／子どもを育てることで、自分が成長すると思うから／子育ては自分にとって意義があると思うからなどの理由で子どもとかわっている
	内的調整	子育ては大変だけれどもおもしろいから／子育ては大変だけれども楽しいから／子育ては大変だけれども子どもを育てることが好きだからなどの理由で子どもとかわっている

2-3. 分析方法

母親への育児支援に対する保育士の情報収集、アセスメント、支援内容から本アセスメントツールの有用性を検討するには、質的に明らかにすることが適していると考え、研究デザインは質的記述的研究（谷津2017）とした。

初回アセスメントは、記入された文脈により母親の育児に関する情報収集（保育士が観察した母親の実際の姿）とアセスメント（表1の客観的な視点に基づき、保育士が母親の育児を評価したり、必要な支援を検討したりすること）に着目して該当箇所を抽出した。次に、抽出したデータをコード化、サブカテゴリ化、カテゴリ化を行った。そして、表1を参考に、子どもへのかかわりを【母親の育児方法の理解】、育児に対する基本的心理欲求は【有能感への欲求充足理解】、【関係性への欲求充足理解】、【自律性への欲求充足理解】、そして、育児に対する動機づけは【育児に対する動機づけの理解】に分類した。

経過記録は、記入された文脈により母親の育児に関する情報収集、アセスメントおよび支援に着目して該当箇所を抽出した。次に、抽出したデータをコード化、サブカテゴリ化、カテゴリ化を行った。そして、有能感支援、関係性支援、自律性支援に分類した。なお、支援の分類にあたり、寺菌（2019）の基本的心理欲求充足尺度を参考に、支援場面に即して定義を設定した（表2）。データ分析に際し、著者間で妥当性の確

保に努めた。また、研究協力者に内容の解釈を確認してもらった。

2.4. 倫理的配慮

事前に施設の代表者より承諾を得、対象者には研究の趣向、自由意思による参加、不利益からの保護、プライバシーの保護、結果の公表等を説明し、同意書を得た。なお、本研究は国立大学法人埼玉大学におけるヒトを対象とする研究に関する倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号：R1-E-4）。

表2. 有能感支援・関係性支援・自律性支援の定義

有能感支援	必要に応じて母親が育児の成功体験を味わえるように支えながら、子どものニーズに応じた育児に対する自信を得られるよう支援すること
関係性支援	母親が周囲とのつながりを実感し、安心して子育てできるよう支援すること
自律性支援	必要に応じて子どものニーズに応じた保育の知識や技術を伝えながら、母親が子どものニーズに応じた育児を自分で決めて、“自分らしく”子育てできるよう支援すること

3 結果

3-1. 初回アセスメントの特徴

7名の保育士が10事例の母親について、初回アセスメントを分析した結果、106コードが抽出された。以下、カテゴリを【 】, サブカテゴリを〈 〉、コードを〔 〕、記述を「 」で示す。

【母親の育児方法の理解】では母親の実際の子どもへのかかわりから、母親の「固形物だと口から出すから、離乳食をあげていた」など〔子どもの発達状況に合わない基本的生活習慣の援助をしている〕や「ダメしかいわない」、「怒鳴る」など〔子どもへ支配的なかかわりをしている〕など〈子どもへのかかわりを把握する〉ことで情報収集していた。保育士は情報収集に基づき、10件の事例で〔子どもへのかかわりから、子どものニーズと母親の育児方法が一致していないことを確認する〕ことで、【母親の育児方法の理解】に努めていた。

【有能感への欲求充足理解】では母親の言動や連絡ノートの記述から〔子どもの世話（基本的生活習慣）に対する自信のなさを把握する〕など〈母親の育児に対する有能感への欲求を把握する〉、そして〈母親の育児に対する有能感への欲求をアセスメントする〉ことで有能感への欲求の理解に努めていた。また、アセスメントに基づき、自信のなさを確認した場合は、成功体験に繋がる保育の知識・技術の提供を検討していた。一方、「子どもの排泄の援助には自信をもっている」など〔母親が育児で達成感を得ている姿を把握する〕ことにより、母親の育児に対する有能感への欲求の理解に努めていた。

【関係性への欲求充足理解】では父親の育児参加、母親の育児ネットワークや保護者同士の関係などの情報収集により、父親の育児参加の必要性や公共のサービスの情報提供等の関係性支援を検討していた。また、情報収集やアセスメントを通して保育士と母親の信頼関係について確認することにより、関係性支援の必要性を検討していた。

【自律性への欲求充足理解】では「自分の育児方法を貫いている」など〔自分らしい育児をしている姿を確認する〕、「他の家庭や子どもと比べる」など〔他者評価を気にして育児をしていることを把握する〕ことや「育児の悩みは本やインターネットで情報を集めている」など〔メディア等の情報を気にしながら育児をしている〕姿から情報収集し、〈母親の育児に対する自律性への欲求を把握する〉ことに努めていた。初回アセスメントでは〔母親の親役割観を情報収集し、自分らしい育児を支援する方法を検討する〕と支援を通して母親の自分らしさを情報収集することの必要性を見出していた。また、情報収集で「自分の育児方法を貫いているため、保育士の助言を聞き入れない」など〔子どものニーズに

応じた育児方法に関する助言を受け入れにくい] 場面から、〔母親のニーズと保育士の助言にズレがあることを確認し、母親のニーズに応じた育児方法の提供について検討する〕保育士も確認された。

【育児に対する動機づけの理解】では、母親の言動をアセスメントした結果、「やらなきゃいけないから」などの外的調整の事例が9件、「よい親と思われたいから」などの取り入りの調整の事例が1件確認された。

表3 初回アセスメントの特徴

カテゴリ (分類)	サブカテゴリ	コード
母親の育児方法の理解	(情報収集) 子どもへのかかわりを把握する	子どもの発達状況に合わない基本的な生活習慣の援助をしている (5) / 子どもへ支配的なかかわりをしている (4) / 子どもへのかかわりが希薄である (4) / 子どもの無理な要求に服従している (3)
	(アセスメント) 子どもへのかかわりについてアセスメントする	子どもへのかかわりから、子どものニーズと母親の育児方法が一致していないことを確認する (10)
有能感への欲求充足理解	(情報収集) 母親の育児に対する有能感への欲求を把握する	子どもの世話 (基本的な生活習慣) に対する自信のなさを把握する (3) / 子どもへのかかわりに対する自信のなさを把握する (3) / 子どもへのかかわりに対する自信を把握する (3) / 母親が育児で達成感を得ている姿を把握する (2)
	(アセスメント) 母親の育児に対する有能感への欲求をアセスメントする	母親の育児に対する自信のなさを確認し、母親の有能感に繋がる育児方法の提供について検討する (5) / 母親の育児方法を把握し、成功体験に繋がる保育の知識・技術の提供を検討する (3) / 母親の育児に対する有能感が充足されていないことを確認する (2) / 母親の育児に対する有能感を確認し、支持的態度の必要性を検討する (1)
関係性への欲求充足理解	(情報収集) 母親の育児に対する関係性への欲求を把握する	母親の言動から祖父母の育児協力を把握する (3) / 保育士と母親の信頼関係について把握する (2) / 育児協力者がいないことを把握する (2) / 公共の育児サービスの利用を把握する (1) / 母親が困ったときに、周囲に援助を求められないことを把握する (2) / 保護者同士のつながりを把握する (2) / 保護者同士の交流が少ないことを把握する (1) / 母親の言動から家庭での父親の育児参加を把握する (1)
	(アセスメント) 母親の育児に対する関係性への欲求をアセスメントする	保育士と母親の信頼関係について確認し、関係性支援の必要性を検討する (5) / 母親の育児協力者を確認し、父親の育児参加の必要性を確認する (3) / 保育士と母親の信頼関係について確認する (1) / 保護者同士のつながりを確認し、保護者間の交流を検討する (1) / 母親の育児ネットワークを確認し、公共のサービスの利用を促すことを検討する (1)
自律性への欲求充足理解	(情報収集) 母親の育児に対する自律性への欲求を把握する	自分らしい育児をしている姿を確認する (5) / 他者評価を気にして育児をしていることを把握する (2) / 子どものニーズに応じた育児方法に関する助言を受け入れにくい (2) / 保育士の助言を参考にしている (2) / メディア等の情報を気にしながら育児をしている (1) / 親の仕事役割の重要性を確認する (1)
	(アセスメント) 母親の育児に対する自律性への欲求をアセスメントする	母親の親役割観を情報収集し、自分らしい育児を支援する方法を検討する (6) / 母親として子どものニーズを満たしたいがうまくできずに悩んでいる姿を確認する (2) / 母親のニーズと保育士の助言にズレがあることを確認し、母親のニーズに応じた育児方法の提供について検討する (2)
育児に対する動機づけの理解 (アセスメント) 育児に対する動機づけをアセスメントする		母親の言動から、母親の育児に対する動機づけ (外的調整) を確認する (9) / 母親の言動から、母親の育児に対する動機づけ (取り入りの調整) を確認する (1)

3-2. 保育士による自己決定理論を活用した育児支援の特徴

自己決定理論に基づいて母親の育児を観る視点を活用した育児支援を表4~6に示した。分析の結果、データからは、有能感支援239コード(28%)、関係性支援238コード(28%)、自律性支援369コード(44%)、合計846コードが抽出され、35サブカテゴリ、8カテゴリに分類された。また、それぞれの支援の特徴も確認された。そこでまず、自己決定理論を活用した育児支援の特徴を述べた上で、保育士の助言を受け入れにくい母親への育児支援の特徴、母親の育児に対する有能感への欲求を充足していく育児支援の特徴、そして母親の育児に対する自律性への欲求を充足していく育児支援の特徴について述べる。

以下、カテゴリ毎に保育士による育児支援の特徴を述べる。なお、経過記録の記述は「」、コードは〔 〕、サブカテゴリは〈 〉、カテゴリは【 】で示す。

(1) 自己決定理論を活用した育児支援の特徴

【育児に対する有能感への支援】では、情報収集として〈母親の育児に対する有能感への欲求を把握する〉、アセスメントとして〈母親の育児に対する有能感への欲求をアセスメントする〉、支援として、〈支持的な態度を示す〉、〈励ます〉、〈母親の有能感に繋がる保育の知識・技術を提供する〉が抽出された。保育士は〈母親の育児に対する有能感への欲求を把握する〉、〈母親の育児に対する有能感への欲求をアセスメントする〉といった母親の育児に対する達成感や自信を情報収集し、育児に対する有能感への充足状況をアセスメントしていた。また、情報収集において、自信のなさを把握した際は、うまくいかない場面を把握し、なぜうまくいかないのか、どのような保育の知識・技術を提供すればよいか、自信をもてるような声かけの必要性などをアセスメントしていた。保育士はアセスメントに基づき、有能感支援として、母親の成功体験を味わえるよう、個別的に育児方法を伝えたり、モデリングをしたり、子どもの世話をしたりしていた。また、保育士は母親の子どもへのかかわりでうまくいっている場面を把握し、〈支持的な態度を示す〉、〈励ます〉など、有能感支援を実践していた。

【保育士-保護者関係構築】では、情報収集として〈保育士-母親間の信頼関係を把握する〉、アセスメントとして〈保育士-母親間の信頼関係についてアセスメントする〉、〈育児不安についてアセスメントする〉、〈育児の喜びの共有についてアセスメントする〉、支援として〈母親自身へ関心を示す〉、〈母親に安心感を与える〉、〈母親と連携して子どもの育ちを支える〉、〈育児の喜びを共有する〉が抽出された。保育士は、母親の〈育児不安についてアセスメントする〉ことにより、母親の〔育児不安に対して受容的な態度を示す〕関係性支援を実践していた。中には「子どもが“お母さんに怒られた”」と発言する園での〔子どもの不安定な姿から母親の育児不安を確認する〕ことにより、〔母親自身の変化に気づき、声をかける〕、〔母親自身の話に傾聴する〕、〔母親の体調面を気遣う態度を示す〕など関係性支援を実践する保育士も確認された。また、保育士は〈保育士-母親間の信頼関係を把握する〉、〈保育士-母親間の信頼関係についてアセスメントする〉ことにより、母親に信頼されているかをアセスメントし、保育士に対する否定的な気持ちを把握した場合は、〈母親自身へ関心を示す〉、〈母親に安心感を与える〉など関係性支援を通して、母親との関係構築に努めていた。母親との関係構築が確認されると、〈育児の喜びを共有する〉ことも可能となり、〈母親と連携して子どもの育ちを支える〉ことにも繋がっていた。

【家族関係構築】では、情報収集として〈家族間の関係性を把握する〉、アセスメントとして〈家族間の関係性についてアセスメントする〉、支援として〈家族間の関係性を支える〉が抽出された。情報収集を通して、主に父親の育児参加について把握し、アセスメントに基づき、父親の育児参加が少

ない場合は、〔母親から父親へ育児参加をお願いするよう提案する〕、直接〔父親へ育児方法を教える〕、父親の育児参加がある場合は、〔父親の育児参加や夫婦の良好な関係性を支持する態度を示す〕など、〈家族間の関係性を支える〉関係性支援を実践していた。

【育児ネットワークの構築】では、情報収集として〈育児ネットワークを把握する〉、アセスメントとして〈育児ネットワークについてアセスメントする〉が抽出された。保育士は母親の育児ネットワークに関する情報収集として、主に祖父母の育児協力や育児に関する公共のサービス利用状況を把握していた。アセスメントとして、〔母親が困ったときに、周囲に援助を求められるかについて確認する〕や〔祖父母との関係性のぎこちなさを確認し、保育士による関係性支援を検討する〕など関係性支援の必要性を検討していた。

【保護者関係構築】では、情報収集として〈保護者同士の繋がりを把握する〉、アセスメントとして〈保護者間の関係構築についてアセスメントする〉、支援として〈保護者同士の繋がりを支える〉が抽出された。保育士は母親の保護者同士の関係性について、保護者同士で過ごす場面から保護者間の交流を検討し、必要に応じて〔クラス懇談会を促す〕、〔保護者同士の交流を見守る〕、〔クラス役員を促す〕など〈保護者同士の繋がりを支える〉関係性支援を実践していた。

【保育の知識・技術の伝達】では、情報収集として〈子どもへのかかわりを把握する〉、〈子どものニーズを把握する〉、〈助言の受け入れやすさを把握する〉、アセスメントとして〈子どもへのかかわりをアセスメントする〉、〈助言の受け入れやすさをアセスメントする〉、支援として〈育児方法を提供する〉、〈母親の育児を見守る〉が抽出された。保育士は子どものニーズに応じた育児方法を提供する際に、情報収集として〔子どもの体調不良を把握する〕、〔基本的生活習慣の乱れを把握する〕ことや〔園での子どもの育ちや学びの姿を把握する〕ことにより〈子どものニーズを把握する〉ことに努めていた。また、〈子どもへのかかわりをアセスメントする〉ことや〈助言の受け入れやすさをアセスメントする〉ことにより、母親の育児上のニーズに応じた〈育児方法を提供する〉自律性支援を実践していた。さらに情報収集で〔母親が子どものニーズを満たそうと努力している場面を把握する〕と、保育士は〈母親の育児を見守る〉ことで母親の自己決定性を支えていた。

【親役割の尊重】では、情報収集として〈母親の親役割観を把握する〉、アセスメントとして〈母親の親役割観をアセスメントする〉、〈母親の育児に対する動機づけをアセスメントする〉、支援として〈母親の親役割観に受容的な態度を示す〉が抽出された。保育士は母親の育児に対する自律性への欲求を支援する際に、母親自身の親のあり方や認識、姿勢、役割期待など〈母親の親役割観を把握する〉ことにより、母親の自分らしい育児を理解することに努めた。保育士は情報収集に基づき、アセスメントとして〔母親として子どものニーズを満たしたいという思いを確認する〕、〔母親の仕事・妻・個としての役割の重要性を確認し、母親の親役割観に応じた対応を検討する〕ことで母親の親役割観を尊重する自律性支援を実践していた。また、支援後の母親の変化から母親の育児に対する動機づけを確認し、母親の親としてのあり方の理解に努めていた。なお、保育士による初回アセスメントにおいて母親の育児に対する動機づけは10名中、9名が外的調整、1名が取り入れ的調整であった。しかし、4か月後の経過記録において、外的調整が取り入れ的調整や自律的な方向に進んだり、「バタバタしているけど、楽しい」、「やっと、楽しいと思えるようになりました」など、内的調整へ進んだりしていることも確認された。

【子ども観の尊重】では、情報収集として〈母親の子ども観を把握する〉、アセスメントとして〈母親の子ども観をアセスメントする〉、支援として〈母親の子ども観に受容的な態度を示す〉が抽出された。保育士は母親の育児に対する自律性への欲求を支援する際に、母親が子どもの育ちや学びをどのように認識しているのかについて、〔子どもの育ちや学びに対する関心の低さを把握する〕、〔子どもの

発達面に対する不安を把握する〕、〔母親が子どもの発達を否定的に捉えていることを把握する〕など（母親の子ども観を把握する）ことにより、母親の子ども観に応じた自律性支援を検討していた。これら情報収集やアセスメントに基づき、保育士は〔母親の子ども観を肯定する〕、〔母親の子どもの発達の認識について、肯定も否定もせず、傾聴する〕など、母親の子ども観を尊重する自律性支援を実践していた。

(2) 保育士の助言を受け入れにくい母親への育児支援の特徴

初回アセスメントでは10事例中、2事例において、保育士が〔母親のニーズと保育士の助言にズレがあることを確認し、母親のニーズに応じた育児方法の提供について検討する〕とアセスメントしていた。以下、保育士の助言を受け入れにくい母親への育児支援の特徴について述べる。

保育士は〔子どものニーズに応じた育児方法に関する助言を受け入れにくい〕が自分らしく育児をしている母親への育児支援において、母親の〈子どもへのかかわりを把握する〉、〈母親の親役割観を把握する〉、〈母親の子ども観を把握する〉など、育児に対する母親の自分らしさを理解するという自律性支援をするためのアセスメントが基盤になっていた。

1事例目の保育士は〔不適切な子どもの健康管理状況を把握する〕一方で、助言を受け入れにくい（母親の親役割観をアセスメントする）ことにより母親の仕事役割や妻役割の重要性を理解し、〔母親自身の親としてのあり方に対して、肯定も否定もせず、受容的な態度を示す〕支援を展開していた。仕事役割を重視したい母親に対して、〔母親が困っている場面で子どもの世話をすることや〔母親自身の話に傾聴する〕など、関係性支援を通して【保育士-保護者関係構築】に努めながら、子どものニーズに応じた【保育の知識・技術の伝達】をしていた。伝達後は母親の自己決定性を見守り、子どものニーズに応じた健康管理場面を把握した際は、母親に対して〈支持的な態度を示す〉有能感支援を実践していた。

2事例目の保育士は自律性支援の【保育の知識・技術の伝達】を通して、助言の受け入れにくさを確認した際、〔子どもの育ちや学びに対する関心の低さを把握する〕、〔子どもの発達面に対する不安を把握する〕など（母親の子ども観を把握する）ことにより、母親の〔育児不安に対して受容的な態度を示す〕関係性支援を実践していた。【保育士-保護者関係構築】に努める中で、母親の〔子どもへのかかわりに対する自信のなさを把握する〕という有能感支援に関する情報も得ていた。保育士は〔母親の育児上で困っていることを確認し、成功体験に繋がる保育の知識・技術の提供を検討する〕、〔母親の育児に対する自信のなさを確認し、支持的態度の必要性を検討する〕というアセスメントに基づき、有能感支援を展開していた。保育士は母親の自信のなさや不安に対して、〈母親に安心感を与える〉、〈母親自身へ関心を示す〉など関係性支援を実践しながらも、子どものニーズに応じた育児場面を把握した際は、母親へ〈支持的な態度を示す〉有能感支援を実践した。

(3) 母親の育児に対する有能感への欲求を充足していく育児支援の特徴

ここでは母親の育児に対する有能感への欲求を充足していく育児支援の特徴について述べる。〈母親の育児に対する有能感への欲求を把握する〉際、保育士は〔子どもへのかかわりに対する自信のなさを把握する〕ことをきっかけに〔母親の育児がなぜうまくいかないのか把握する〕ことに努めていた。一方、自信のなさのみならず、〔母親の育児で得意なことを把握する〕ことにも努めていた。これら情報収集に基づき、〈母親の育児上で困っていることを確認し、成功体験に繋がる保育の知識・技術の提供を検討する〉、〈母親の育児に対する自信のなさを確認し、支持的態度の必要性を検討する〉ことで有能感支援を実践していた。保育士は有能感支援をする際は、自律性支援として〈助言の受け入れやすさを把握する〉、〈助言の受け入れやすさをアセスメントする〉ことにより、母親のニーズと保育士の助

言のズレを修正しながら育児方法を提供していた。また、〔子どもの育ちを支える視点をもって、子どもの育ちや学びの姿の意味を伝える〕や〔母親に対する子どもの肯定的な気持ちを解説する〕という【保育の知識・技術の伝達】をしながらも、母親の〈母親の親役割観を把握する〉、〈母親の子ども観を把握する〉など、母親の自分らしさの理解にも努めていた。また、保育士は関係性支援として、〔保育士も子どもに応じた育児方法を考えていくと伝える〕や〔母親が困っている場面で子どもに声をかけたり、子どもを抱っこしたりする〕など、〈母親と連携して子どもの育ちを支える〉ことや〈育児の喜びを共有する〉ことにより【保育士-保護者関係構築】を図っていた。保育士は母親との関係性が深まると、母親が子どもへのかかわりでうまくいっている場面を確認した際、〔母親の育児の成功体験を喜び合う〕ことも可能となっていた。

母親の育児に対する有能感への欲求が充足されていく中で、「Aは〇〇の絵本が好きなので、〇〇に出てきたケーキをAと一緒に作りました」と母親の育児が子どものニーズに応じていることも確認された。保育士の支持的態度に支えられながら、母親は子どものニーズを満たそうと努力していたり、母親の育児が子どものニーズに応じていたりしていることも確認された。

保育士は母親の育児に対する動機づけについて、〔支援後の母親の変化から、母親の育児に対する動機づけの変化（外的調整から取り入りの調整へ）を確認する〕や〔支援後の母親の変化から、母親の育児に対する動機づけ（外的調整）が自律的な方向へ進んでいることを確認する〕とアセスメントしていた。

(4) 母親の育児に対する自律性への欲求を充足していく育児支援の特徴

ここでは母親の育児に対する自律性への欲求を充足していく育児支援の特徴について述べる。保育士は、母親の有能感への欲求が充足されたり、母親が自律的に子どものニーズに応じた育児をしたり、子どものニーズに応じた育児をしようと努力したりしている場面を確認すると、育児に対する自律性への欲求充足を主軸とした自律性支援へ移行する特徴が確認された。

保育士は〈子どもへのかかわりをアセスメントする〉ことにより、母親の育児に対する自律性の高まりを確認した場合、必要に応じて育児方法を提供しながらも〈母親の育児を見守る〉支援が多く確認された。〈母親の育児を見守る〉中で、母親の育児に対する自信のなさを確認すると、〈母親の有能感に繋がる保育の知識・技術を提供する〉のみならず、〔母親自身が決めたことを認めて支持する態度を示す〕、〔母親自身が解決できたことを認め、支持する態度を示す〕など母親の自己決定性に対して〈支持的態度を示す〉有能感支援を実践していた。

また、保育士は母親の有能感への欲求が充足されたり、母親が自律的に子どものニーズに応じた育児をしたり、子どものニーズに応じた育児をしようと努力したりしている場面を確認すると、【保育士-保護者関係構築】を図りながらも【保護者間関係構築】についても検討し、〈保護者同士の繋がりを支える〉実践をしていた。そして、保育士は母親の育児に対する動機づけについて、〔支援後の母親の変化から、母親の育児に対する内発的動機づけ（内的調整）を確認する〕とアセスメントしていた。

4. 考察

本研究では、育児行動尺度（寺薊ら 2019）、寺薊（2019）の育児行動に対する基本的心理欲求充足尺度や動機づけ尺度の項目をアセスメントの指標として自己決定理論に基づく母親の育児を観る視点を整理した。保護者に対する子育て支援に当たっては、保育士等が保護者と連携して子どもの育ちを支える視点をもって、子どもの育ちの姿とその意味を保護者に丁寧に伝え、子どもの育ちを保護者と共に喜び合うことを重視する（厚生労働省 2018）。保護者の養育する姿勢や力の発揮を支えるためにも、保護者自身の主体性、自己

決定を尊重することが基本となる（厚生労働省 2018）。したがって、保育所における母親への育児支援では、子どものニーズに応じた育児方法を助言するだけでなく、母親が自分らしく、子どものニーズに応じた育児を遂行できるよう支援していく必要があると考える。

本研究では、まず、母親の子どもへのかかわりの課題を確認するために、寺藺ら（2019）の育児行動尺度をアセスメントの指標とした。初回アセスメントの結果、〔子どもの発達状況に合わない基本的生活習慣の援助をしている〕、〔子どもへ支配的なかかわりをしている〕、〔子どもへのかかわりが希薄である〕、〔子どもの無理な要求に服従している〕など、子どもの発達を促すかかわり、社会生活に向けての教育や基本的生活習慣の確立に必要な母親の子どもへのかかわりに関する課題が明らかとなった。次に、母親の育児上のニーズを確認するために、寺藺（2019）の育児行動に対する基本的心理欲求充足尺度と動機づけ尺度をアセスメントの指標とした。初回アセスメントの結果、【有能感への欲求充足理解】により母親の育児に対する自信を得るための支援方法を検討したり、【関係性への欲求充足理解】により母親が安心して子育てできる支援方法を検討したり、【自律性への欲求充足理解】により母親が自分らしい育児をするために今後どのような情報収集が必要かを検討したりしていることが明らかとなった。また、保育士は育児に対する動機づけの指標を基に母親の育児に対する自己決定性（自律性）をアセスメントしていた。以上の結果から、本アセスメントツールは母親の育児上の課題やニーズを理解し、必要な支援方法を検討することが可能であることが考えられる。

また、本研究では保育士が本アセスメントツールに基づき、情報収集やアセスメントしながら支援した経過記録の記述を分析した。

有能感支援では、本アセスメントツールの育児に対する有能感への欲求の a) 自信、b) 達成感、c) うまくしている感覚、d) 自分の得意分野を育児に活かす、e) 母親の育児を褒めてくれる人がいる、という客観的な視点をもとに、【育児に対する有能感への支援】を実践していることが示唆された。保育士は、a)～c)の視点から母親の育児に対する自信や達成感の程度を把握したり、d) の視点から育児において母親の得意な部分を把握したりするなど、母親の育児に対する有能感への欲求を充足するための情報収集に努めていることが明らかとなった。また、保育士は母親の自信や達成感を把握し、母親へ支持的態度を示すなど、e) の視点を充足する支援を実践していることが明らかとなった。保育士は支援後の母親の変化から、母親の育児に対する有能感への欲求充足の程度をアセスメントしていた。これら有能感支援の特徴から、本アセスメントツールを活用することにより、保育士は母親の子どもへのかかわりに対する自信を確認しながら、母親が成功体験を味わえるような育児方法を伝えたり、支持的な態度を示したりするなど意図的に母親の育児に対する有能感への欲求を充足する支援を実践していることが示唆された。

関係性支援では、育児に対する関係性への欲求を把握する視点、i) 相談できる人がいる、ii) 励ましてくれる人がいる、iii) 信頼関係を築いている人がいる、iv) 親切にされていると実感している、v) 保護者との関係性がよい、vi) 保護者の中に話せる人がいる、という客観的な情報をもとに、保育士は母親の育児に対する関係性への欲求充足をアセスメントし、【保育士-保護者関係構築】、【家族関係構築】、【育児ネットワークの構築】、【保護者間関係構築】の支援を実践していることが明らかとなった。保育士は、i)～iv)の視点から保育士自身と母親との関係性をアセスメントし、関係性支援を通して【保育士-保護者関係構築】に努めていることが明らかとなった。また、【保育士-保護者関係構築】が深まるにつれて、〈母親と連携して子どもの育ちを支える〉、〈育児の喜びを共有する〉支援が展開されることが明らかとなった。また、保育士は母親の有能感への欲求が充足されたり、母親が自律的に子どものニーズに応じた育児をしたり、子どものニーズに応じた育児をしようと努力したりしている場面を確認すると、【保育士-保護者関係構築】に努めながらも、v)とvi)の視点に該当する【保護者間関係構築】を図り、保護者懇談会等を通して、

母親同士の繋がりやサポート力など母親同士の人間関係の調整を行っていることが明らかとなった。これらの関係性支援の特徴から、保育士は、本アセスメントツールを活用することにより、育児に対する関係性への欲求充足状況を確認しながら、保育士との信頼関係を基盤とした、関係性への欲求充足を意図した支援を実践していることが示唆された。

自律性支援では、育児に対する自律性への欲求充足を把握する視点、イ) 自分らしい育児、ロ) 自己決定的な育児、ハ) 自分の意見や考えを言える、という客観的な視点を基に、【保育の知識・技術の伝達】、【親役割観の尊重】、【子ども観の尊重】の支援を実践していることが示唆された。小川 (2013) は母親の子育てしている自分以外の側面である“個としての母親”、“妻としての母親”の肯定感の向上が育児態度の改善に結びついていること、保育士がタイミングを見て子どものよいところを伸ばす提案をすることで、母親の子どもへの関わりが変化し、結果的には“子育てしている自分”に肯定感をもつことに繋がるプロセスを明らかにしている。本研究でも同様に保育士がイ) の視点をアセスメントし、母親の親役割観や子ども観に応じた支援をすることにより、母親の育児が子どものニーズに応じた育児へと変化していることが明らかとなった。また、母親の自分らしい育児が子どものニーズに応じていない場合、【保育の知識・技術の伝達】をするが、その際も母親の育児に対する自己決定性や助言の受け入れやすさからロ) やハ)の視点をアセスメントし、支援を展開していることが明らかとなった。原口ら (2005) によると、女性の理想とする“家庭人としての自己”、“社会人および職業人としての自己”、“個人としての自己”の構成割合はそれぞれ3等分されることであり、特に母親が“家庭人としての自己”と“個人としての自己”の現実と理想のギャップを感じると、育児不安を喚起されやすいという。また、相澤 (2009) によると、保育者・保護者をもつ保護者像に相違があり、保育者は“保護者は自分のことよりも子どものことを第一に考えるべきだ”と考えている傾向があるのに対し、保護者は“親自身が楽しく生活する”ことも重要だと考えており、子どものことは大切に考えているが、自分自身の生活も大切にしたいという。そして保育士による保護者支援には子どもの最善の利益という価値をめぐる保育士-保護者関係に難しさがあるという (亀崎2015)。しかし今回、保育士の助言を受け入れにくい母親に対して、保育士はイ)~ハ)の視点から客観的に母親の親役割観や子ども観を捉えることも可能となり、意図的に母親の育児上の課題やニーズに応じた【保育の知識・技術の伝達】に繋がることが考えられた。これらの自律性支援の特徴から、育児に対する自律性への欲求充足の客観的な視点を基に、自律性への欲求充足を意図した支援、すなわち、子どもの最善の利益を軸とした母親の自分らしい育児を支えていることが示唆された。

本アセスメントツールでは、子どものかかわりの指標として、寺菌ら (2019) の育児行動尺度から、子どもの発達を促すかかわり、社会生活に向けての教育、基本的な生活習慣の確立に向けての援助としたが、今回の経過記録から母親の健康管理に関する情報収集、アセスメントや支援内容も確認された。発熱のある子どもの保護者との対応にあたって、保護者が自分の都合を優先させる態度や感染の流行を予防するという集団保育における健康管理の重要性を保護者に指導することの困難さが明らかにされている (小代ら 2014)。本研究では子どもの不適切な健康管理に対して、本アセスメントツールを活用して支援した結果、母親の育児は子どものニーズに応じた健康管理へと変化していたことから、子どもの不適切な健康管理に対する母親の育児についても活用可能性が示唆された。

寺菌 (2019) は、育児行動に対する基本的心理欲求の充足が母親の自律的動機づけの内在化プロセスにおいて重要な要因であることを示唆している。本研究でも同様に、今回の保育士による自己決定理論を活用した母親への育児支援により、本研究の母親の育児に対する動機づけは、外的調整が取り入れ調整や自律的な方向に進んだり、内的調整へ進んだりしていたことから、3つの基本的心理的欲求を充足する支援が母親の育児に対する自己決定性を促進する可能性も示唆された。

今回、保育士による自己決定理論を活用した母親への育児支援では、有能感支援 28%、関係性支援 28%、自律性支援 44%と自律性支援の頻度が多いことが明らかとなった。また、保育士は母親との信頼関係に努めながら、母親の育児に対する有能感と自律性への欲求を充足していく支援の特徴が示唆された。具体的には、母親の育児に対する有能感への欲求が充足され始めると、母親が自己決定的に子どものニーズを満たしたいという欲求が確認され、保育士による自律性支援の強化が母親の自己決定性を高めていくことが確認された。また、その際の保育士による母親の育児に対する動機づけのアセスメントでは、外的調整が取り入的調整や内的調整へ進むなど、自律的な動機づけへの変化が確認されていた。速水（2019）によると、自己決定理論では、基本的心理欲求の順序性は問題にされていないが、自律的動機づけの形成には有能感、関係性、自律性の順で充足、促進されていくものと推察している。このことを踏まえると、自己決定理論を活用した育児支援では、保育士との安定した関係性の中で、有能感、自律性の順で充足が促進され、自律的動機づけが形成されていくことが考えられた。

5. まとめと今後の課題

本研究では、アセスメントの指標として寺藪ら（2019）の育児行動尺度、寺藪（2019）の育児行動に対する基本的心理欲求充足尺度や動機づけ尺度の内容妥当性を検討するために、本アセスメントツールを活用した保育士による育児支援の特徴を明らかにした。初回アセスメントを分析した結果、保育士は母親の育児上の課題や育児に対する有能感、関係性、自律性への欲求充足状況を理解し、母親のニーズに応じた育児支援を検討していたことが確認された。また、支援時の経過記録を分析した結果、自己決定理論を活用した育児支援の特徴、保育士の助言を受け入れない母親への育児支援の特徴、母親の育児に対する有能感への欲求を充足していく育児支援の特徴、母親の育児に対する自律性への欲求を充足していく育児支援の特徴が確認された。本アセスメントツールを活用することにより、保育士との安定した関係性の中で、有能感、自律性の順で充足、促進され、自律的動機づけが形成されていくことが考えられた。以上の結果から、本アセスメントツールは母親の自己決定性を尊重しながら、子どものニーズと一致しない育児をしている母親への育児支援に貢献すると考える。

本アセスメントツールでは、寺藪ら（2019）の育児行動尺度を指標として、子どものかかわりを子どもの発達を促すかかわり、社会生活に向けての教育、基本的生活習慣の確立に向けての援助としたが、今回の経過記録では母親の健康管理に関する情報収集やアセスメント、支援内容も確認された。子どもの不適切な健康管理に対して、本アセスメントツールを活用して支援した結果、母親の育児は子どものニーズに応じた健康管理へと変化していた。今後は子どもへのかかわりの情報収集の中に、子どもの健康管理についても追加し、保育士が活用できる支援方法の方略を検討していく必要がある。

本研究の限界として、研究協力者が7名の保育士であることから、本研究の結果をそのまま一般化することはできない。しかし、今回得られた結果を基に、子どものニーズと一致しない育児をしている母親への育児支援の方略として検討し、本アセスメントツールを活用したガイドラインの作成も可能であり、今後の課題にしていきたいと考える。

謝辞

本研究にご理解とご協力を賜りました、保育士の皆様に心より感謝申し上げます。

本研究は、科学研究費助成事業基盤研究(C)(課題番号:17K01889)の助成を受けて実施した。

表 4. 有能感支援の特徴

【カテゴリ】	〈サブカテゴリ〉	コード
情報収集	【育児に対する有能感への支援】 〈母親の育児に対する有能感への欲求を把握する〉	子どもへのかかわりに対する自信のなさを把握する (59) / 母親の育児がなげうまくいかないのかを把握する (21) / 子どもへのかかわりに対する自信を把握する (8) / 母親の育児で得意なことを把握する (7) / 母親が育児で達成感を得ている姿を把握する (3) / 子どもの世話に対する自信のなさを把握する (2) / 子どもへのかかわりの中で、うまくいっている場面を把握する (1)
アセスメント	〈母親の育児に対する有能感への欲求をアセスメントする〉	母親の育児上で困っていることを確認し、成功体験に繋がる保育の知識・技術の提供を検討する (15) / 助言後の母親の変化から、母親の育児に対する有能感への欲求の充足を確認する (11) / 有能感支援後の育児に対する有能感への充足を確認し、支持的態度の継続の必要性を検討する (6) / 母親の育児に対する自信のなさを確認し、支持的態度の必要性を検討する (5) / 母親の育児がなげうまくいかないのかを確認する (1) / 母親の育児の知識不足を把握し、成功体験に繋がる保育の知識・技術の提供を検討する (1) / 母親の育児に対する有能感が充足されていないことを確認する (1)
支援	〈支持的な態度を示す〉	母親の育児を認めて支持する態度を示す (21) / 母親良好な健康管理が子どもの健康な姿に繋がっていることを伝える (8) / 母親自身が決めたことを認め支持する態度を示す (5) / 母親自身が解決できたことを認め、支持する態度を示す (2)
	〈励ます〉	母親自身が育児で努力していることを継続できるよう励ます (8) / 母親が育児を頑張れるよう励ます (1)
	〈母親の有能感に繋がる保育の知識・技術を提供する〉	母親が育児の成功体験を味わえるよう、個別的な育児方法を伝える (40) / 母親が育児の成功体験を味わえるよう、個別的な育児方法をモデリングする (6) / 母親が成功体験を味わえるよう、子どもの世話をする (5) / うまくいかない理由を解説する (2)

表 5. 関係性支援の特徴

【カテゴリ】	(サブカテゴリ)	コード
情報 収集	【保育士-保護者関係構築】	
	〈保育士-母親間の信頼関係を把握する〉	母親の言動から保育士に対する肯定的な気持ちを把握する (18) / 母親が困ったときに、保育士へ援助を求める行動を把握する (4) / 母親の言動から保育士に対する否定的な気持ちを把握する (2)
ア セ ス メ ン ト	〈保育士-母親間の信頼関係についてアセスメントする〉	保育士と母親の信頼関係について確認する (13) / 関係性支援後の育児に対する関係性への欲求充足を確認し、関係性支援の継続の必要性を検討する (4) / 母親が困ったときに、保育士へ援助を求められることを確認する (4) / 母親が困ったときに援助を求められていないことを確認し、関係性支援を検討する (2) / 保育士と母親の信頼関係構築の困難さを確認する (1)
	〈育児不安についてアセスメントする〉	支援後の母親の変化から、母親の育児不安が軽減されていることを確認する (8) / 母親の育児不安を確認し、関係性支援を検討する (5) / 母親の育児不安を確認する (1) / 子どもの不安定な姿から母親の育児不安を確認する (1)
支 援	〈育児の喜びの共有についてアセスメントする〉	支援後の母親の変化から、保育士と一緒に子どもの育ちや学びの姿を喜び合えることを確認する (2)
	〈母親自身へ関心を示す〉	母親自身の話に傾聴する (9) / 母親の体調面を気遣う態度を示す (9) / 多重役割の負担感に共感的な態度を示す (5) / 母親自身の変化に気づき、声をかける (1)
	〈母親に安心感を与える〉	育児不安に対して受容的な態度を示す (25) / 母親が関わり易い保育士が支援する (1)
	〈母親と連携して子どもの育ちを支える〉	保育士も子どもに応じた育児方法を考えていくと伝える (8) / 母親からの育児方法に対する質問を受ける (7) / 母親が困っている場面で子どもに声をかけたり、子どもを抱っこしたりする (6) / 子どもの発達上の課題を話し合う (5) / 保育士も子どもに応じた育児方法を考えていくと伝える (1) / 母親の育児方法を共有したいことを伝える (1) / 母親からの育児方法の提案を受容する (2) / 子どものニーズに応じた育児について一緒に考える (1) / 母親が困っている場面で子どもの世話をする (1)
	〈育児の喜びを共有する〉	子どもの育ちや学びの姿を喜び合う (16) / 母親の育児の成功体験を喜び合う (7) / 母親が示す親としての喜びを共に喜び合う (3) / 母親の育児の喜びを共有する態度を示す (2) / 子どもの健康な姿を喜び合う (1) / 母親自身が解決できたことを喜び合う (1)
情報 収集	【家族関係構築】	
	〈家族間の関係性を把握する〉	母親の言動から父親の育児参加の少なさを把握する (5) / 父親の姿から父親の育児参加を把握する (3) / 母親の言動から父親の育児参加を把握する (2) / 母親の言動から父親の育児参加を喜ぶ姿を把握する (1)
ア セ ス メ ン ト	〈家族間の関係性についてアセスメントする〉	母親の言動から父親の育児参加を確認し、父親の育児参加を促すことを検討する (3) / 父親の育児参加の少なさを把握し、保育士による関係性支援を検討する (1)
支 援	〈家族間の関係性を支える〉	父親の育児参加や夫婦の良好な関係性を支持する態度を示す (3) / 母親から父親へ育児参加をお願いするよう提案する (1) / 父親へ育児方法を教える (1)
情報 収集	【育児ネットワークの構築】	
	〈育児ネットワークを把握する〉	母親の言動から祖父母のサポート状況を把握する (5) / 母親の言動から祖父母との関係性のぎこちなさを把握する (2) / 育児に関する公共のサービスの利用状況を把握する (2) / 母親の育児に対するサポート体制が整っていないことを把握する (1) / 母親の言動から、母親のきょうだいの育児協力を把握する (1) / 育児協力者がいないことに対する不安を把握する (1)
ア セ ス メ ン ト	〈育児ネットワークについてアセスメントする〉	母親の育児ネットワークの狭さを確認し、保育士による関係性支援を検討する (4) / 母親が困ったときに、周囲に援助を求められるかについて確認する (2) / 祖父母の育児協力について確認する (2) / 祖父母との関係性のぎこちなさを確認し、保育士による関係性支援を検討する (1) / 公共の育児サービスの利用状況から、育児に対する関係性への欲求の充足を確認する (1) / 公共の育児サービスの利用状況を確認する (1) / 祖父母の育児協力から、育児に対する関係性への欲求充足を確認する (1)
情報 収集	【保護者間関係構築】	
	〈保護者同士の繋がりを把握する〉	保護者間の交流の少なさを把握する (1) / 他の保護者とうまくいっていない場面を確認する (1)
ア セ ス メ ン ト	〈保護者間関係構築についてアセスメントする〉	保護者同士のつながりを確認し、保護者間の交流を検討する (5) / 保護者同士の交流に喜ぶ姿を確認する (3) / 保護者同士の交流で安心している姿を確認する (1) / 保護者同士の繋がりから、育児に対する関係性への欲求の充足を確認する (1)
支 援	〈保護者同士の繋がりを支える〉	クラス懇談会を促す (2) / 保護者同士の交流を見守る (2) / クラス役員を促す (1)

表 6. 自律性支援の特徴

【カテゴリ】	〈サブカテゴリ〉	コード
情報収集	【保育の知識・技術の伝達】	母親が子どものニーズを満たそうと努力している場面を把握する (12) / 母親の子どものニーズに応じた健康管理を把握する (11) / 子どもの発達状況に合わない基本的生活習慣の援助を把握する (6) / 子どもへのかかわりが希薄な場面を把握する (6) / 不適切な子どもの健康管理状況を把握する (5) / 母親の子どものニーズに応じた育児方法を把握する (4) / 子どもへのかかわりで大切にしていることを把握する (3) / 子どもへ支配的なかかわりを把握する (3) / 子どもの無理な要求に服従している (2) / 子どもの発達を促すかかわりを把握する (1) / 子どもの病状を理解していることを把握する (1) / 子どもへ脅して注意する場面を把握する (1) /
	〈子どもへのかかわりを把握する〉	子どもの体調不良を把握する (12) / 園での子どもの育ちや学びの姿を把握する (7) / 基本的生活習慣の乱れを把握する (2)
	〈助言の受け入れやすさを把握する〉	助言の受け入れを確認する (23) / 助言の受け入れにくさを確認する (21)
アセスメント	〈子どもへのかかわりをアセスメントする〉	母親の育児方法の変化から、子どものニーズに合っていることを確認する (16) / 子どものニーズと母親の育児方法が一致していないことを確認する (7) / 母親の言動から、子どものニーズに応じた育児を挑戦しようとする意を確認する (5) / 母親の不適切な子どもの健康管理について確認し、保育の知識・技術の伝達方法を検討する (2) / 子どものニーズに応じた健康管理をしていることを確認する (1)
	〈助言の受け入れやすさをアセスメントする〉	母親のニーズと保育士の助言にズレがあることを確認する (6) / 母親のニーズと保育士の助言にズレがあることを確認し、母親のニーズに応じた育児方法の提供について検討する (3) / 母親のニーズと保育士の助言が一致していることを確認する (2) / 助言に対する母親の言動から、母親への保育の知識・技術の伝達方法について検討する (1)
支援	〈育児方法を提供する〉	子どもの育ちを支える視点をもって、子どもの育ちや学びの姿とその意味を伝える (33) / 子どものニーズに応じた健康管理方法を伝える (11) / 子どものニーズに応じた育児方法を伝える (11) / 母親に対する子どもの肯定的な気持ちを解説する (10) / 子どもの育ちを支える視点をもって、子どもの発達上の課題を伝える (5) / 保育参観を促す (3) / 子どもの育ちを支える視点をもって、子どもの生活習慣上の課題を伝える (2) / 保育参加を促す (2) / 健康状態に関する子どものニーズを伝える (2) / クラスだよりを発行する (1)
	〈母親の育児を見守る〉	育児方法を伝え、母親の自己決定性を見守る (9) / 母親の育児方法に対して肯定も否定もせず、見守る (4)
情報収集	【親役割観の尊重】	母親として子どものニーズを満たしたいという意を把握する (9) / 母親の仕事役割の重要性を把握する (5) / 母親の妻役割の重要性を把握する (2) / 多重役割に対する不安を把握する (2) / 母親として喜ぶ姿を把握する (1) / 母親の親役割の重要性を把握する (1)
	〈母親の親役割観を把握する〉	母親の親役割観を情報収集し、自分らしい育児を支援する方法を検討する (7) / 母親の仕事・妻・個としての役割の重要性を確認し、母親の親役割観に応じた対応を検討する (3) / 母親として子どものニーズを満たしたいという意を確認する (2) / 母親の仕事役割の重要性を確認する (1) / 母親が親として喜ぶ姿を確認する (1) / 母親として子どもの発達の特性を受容することの困難さを確認する (1)
アセスメント	〈母親の親役割観をアセスメントする〉	支援後の母親の変化から、育児に対する内発的動機づけ (内的調整) を確認する (5) / 母親の言動から、育児に対する動機づけ (外的調整) を確認する (4) / 支援後の母親の変化から、育児に対する動機づけの変化 (外的調整から取り入れ的調整へ) を確認する (2) / 支援後の母親の変化から、育児に対する動機づけ (外的調整) が自律的な方向へ進んでいることを確認する (2) / 母親の言動から、育児に対する動機づけ (同一的調整) を確認する (1) / 母親の言動から、育児に対する動機づけ (取り入れ的調整) を確認する (1)
	〈母親の育児に対する動機づけをアセスメントする〉	支援後の母親の変化から、母親自身の親としてのあり方に対して肯定も否定もせず、受容的な態度を示す (2)
情報収集	【子ども観の尊重】	子どもの発達面に対する不安を把握する (19) / 母親が子どもの育ちを喜ぶ姿を把握する (17) / 母親が子どもの発達を否定的に捉えていることを把握する (4) / 母親の子ども育ちに関する理解の深まりを把握する (3) / 子どもの成長面に対する不安を把握する (3) / 子どもの育ちや学びに対する関心の低さを把握する (3) / 母親が子どもの発達の特性を受容していることを把握する (2)
	〈母親の子ども観を把握する〉	支援後の母親の変化から、母親の子ども育ちや学びに対する喜びを確認する (3) / 母親が子どもの発達を否定的に捉えていることを把握する (1) / 子どもの育ちや学びに対する関心の低さから、母親の育児の喜びを支える必要性を検討する (1) / 母親の子ども発達に対する関心の高まりを確認し、保育の知識・技術の伝達方法を検討する (1) / 母親の子ども育ちに対する認識の深まりを確認する (1) / 母親が子どもの発達の特性を理解していることを確認する (1)
アセスメント	〈母親の子ども観をアセスメントする〉	支援後の母親の変化から、母親の子ども育ちや学びに対する喜びを確認する (3) / 母親が子どもの発達を否定的に捉えていることを把握する (1) / 子どもの育ちや学びに対する関心の低さから、母親の育児の喜びを支える必要性を検討する (1) / 母親の子ども発達に対する関心の高まりを確認し、保育の知識・技術の伝達方法を検討する (1) / 母親の子ども育ちに対する認識の深まりを確認する (1) / 母親が子どもの発達の特性を理解していることを確認する (1)
	〈母親の子ども観に受容的な態度を示す〉	母親の子ども観を肯定する (1) / 母親の子どもに対する発達認識について、肯定も否定もせず、傾聴する (1)

引用文献

- 相澤輝美 (2009) . 子育て支援の担い手としての保育士・幼稚園教諭. 繁多 進編. 子育て支援に生きる心理学—実践のための基礎知識. 初版. 東京:新曜社, pp163-172.
- 浅見侑子・柴田玲子 (2013) .子どもの QOL に関連する母親のアイデンティティ「個」と「関係性」の 2 側面からの検討— . 子どもの健康科学 13, pp9-16.
- 原口由紀子・松浦治代・矢倉紀子・佐々木くみ子・笠置綱清 (2005) . 母親の個人としての生き方志向と育児不安との関連. 小児保健研究 64, pp265-271.
- 速水敏彦 (2019) . 内発的動機づけと自律的動機づけ. 初版. 東京:金子書房.
- 亀崎美沙子 (2015) .保育所保育士の感じる保育相談支援の困難性に関する要因の検討—保育所保育士の感じる保護者とのかかわりの難しさを手がかりに—第 1 回サクセス保育・幼児教育研究懸賞論文.<https://www.like-kn.co.jp/wp/wp-content/uploads/2015/05/kamezaki.pdf> . (2020.3. 8 閲覧) .
- 金岡 緑. 育児に対する自己効力感尺度 (parenting Self-efficacy Scale : PSE 尺度) の開発とその信頼性・妥当性の検討 (2011) . 小児保健研究 70, pp27-38.
- 厚生労働省. 「健やか親子 21 (第 2 次)」 <http://sukoyaka21.jp/> (参照 2020-04-02)
- 小代仁美・高野政子・山内美奈子 (2014) . 保育所で発熱した乳幼児の保護者との対応の際の保育士の困難. 看護科学研究12, pp53-57.
- 西村多久磨. 自己決定理論(2019). 上淵 寿・大芦 治編. 新・動機づけ研究の最前線. 初版. 京都:北大路書房, pp45-73.
- 西村多久磨, 河村茂雄, 櫻井茂男 (2011) . 自律的な学習動機づけとメタ認知的方略が学業成績を予測するプロセス—内発的な学習動機づけは学習成績を予測することができるのか?—. 教育心理学研究 59, pp77-87.
- 小川晶 (2013) . 保育士の母親支援における母親の肯定感と養育態度の改善との関係. 植草学園大学研究紀要 5, pp17-23.
- Ryan, R.M., & Connel, J.P.(1989). Perceived locus of causality and internalization : Examining Reasons for Acting in two Domains. *Journal of Personality and Social Psychology* 5,pp749-761.
- Ryan,R.M., & Deci, E.L (2000) . Self-determination theory and the facilitation of intrinsic motivation, social development, and well-being. *American Psychologist* 55,pp68-78.
- Ryan,R.M., & Deci,E.L(2017). Self-determination theory: Basic psychological needs in motivation, development, and wellness, Guilford Publications, New York.
- 寺菌さおり (2019) . 子育て期の母親の育児行動に対する基本的心理欲求充足と動機づけとの関連. 小児保健研究 78, pp33-40.
- 寺菌さおり・山口桂子 (2019) . 『母親の育児行動尺度』の作成. 第 66 回日本小児保健協会学術集会講演集 78, p184.
- 山口雅史 (2010) . 母親になるということ—母親アイデンティティを巡る考察—. 京都:あいり出版.
- 谷津裕子 (2017) . Start Up 質的看護研究 (第2版) . 東京:学研メディカル秀潤社.

(2020年9月30日提出)

(2020年11月10日受理)

Development of an Assessment Tool for Childcare Support of Mothers: Examination of the Content Validity of the Items Based on the Self-Determination Theory.

TERAZONO, Saori

Faculty of Education, Saitama University

YOSHIKAWA, Haruna

Faculty of Education, Saitama University

HAMAZAKI, Takashi

Naruto University of Education

Abstract

The present study clarifies the characteristics of childcare support provided by nursery teachers using assessment items based on self-determination theory with a view to develop an assessment tool for childcare support of mothers. The initial assessment showed that nursery teachers considered the level of satisfaction of mothers' needs with regard to competence, relationships, and autonomy in childcare, as well as the challenges associated with childcare support accordingly. Eight categories were identified in regard to the characteristics of support provided by nursery teachers using self-determination theory, namely, "supporting a sense of competence in childcare," "building a relationship between the nursery teacher and parent/guardian," "building a family relationship," "building a parenting network," "building relationships among parents/guardians," "sharing parenting knowledge and techniques," "respecting the view of parental role," and "respecting the view of children." The study also confirmed the characteristics of support for mothers who were not receptive to advice from nursery teachers and the characteristics of competence support or autonomy support for mothers' childcare by nursery teachers. By using the present assessment tool within a stable relationship with nursery teacher, it may be possible to satisfy and promote competence and autonomy, thereby building autonomous motivation. Therefore, the present assessment tool can contribute to childcare support that respects mothers' self-determination.

Keywords: mother, childcare support, assessment tool, the self-determination theory,